

臺灣的大學英語系・外語系之日語教育考察

王敏東^{*}・廖俊棋

臺灣科技大學應用外語系^{*}・臺中科技大學應用日語系

摘要

本研究探討我國（應用）英語系（共 50 系）及（應用）外語系（共 56 系）中的日語教育，調查英語系及外語系中日語課程的開授狀況及師資結構，並與該英語系或外語系的設立宗旨、教育目標等進行比較。另外並訪談由英語或外語專攻轉換到日語系，或是從日語專攻轉到英語系的學生，探究他們心目中的日語定位。結果得知（應用）英語系及（應用）外語系均重視日語教育，其中又以（應用）外語系為甚。而訪談結果也可看出（應用）英語系及（應用）外語系學生對日文展現的興趣。

關鍵字：第二外語、日語、課程、教師、訪談

台湾の大学の英語学科・外国語学科における日本語教育 に関する一考察

王敏東*・廖俊棋

台湾科技大学応用外国語学科*・台中科技大学応用日本語学科

要旨

本研究では台湾にある（応用）英語学科（全 50 学科）と（応用）外国語学科（全 56 学科）における日本語教育について検討した。具体的には日本語の授業の開講状況、教師の内訳などを調べ、学科の設立趣旨、教育目標などと照合してみた。また、専攻を英語から日本語へ、あるいは日本語から英語へと変更した人が多く見られたことから、そのような人にインタビュー調査をし、日本語が彼らにとってどのようなものかも探ってみた。（応用）英語学科と（応用）外国語学科はいずれも日本語教育を重視する意向が見られ、（応用）外国語学科の方がその傾向が強い。また、インタビューの結果、（応用）英語学科と（応用）外国語学科の学生は日本語に興味を持っていることも確認できた。

キーワード：第二外国語、日本語、授業、教師、インタビュー

Japanese Language Education in Department of English and in Department of Foreign Languages of Universities of Taiwan

Wang Ming-Tung^{*} • Liao Chun-Chi

Department of Applied Foreign Languages, National Taiwan
University of Science and Technology^{*} • Department of Japanese
studies, National Taichung University of Science and Technology

Abstract

This study surveyed the Japanese education of Department of (Applied) English (totally 50 departments) and Department of (Applied) Foreign Languages (totally 56 departments) of universities of Taiwan with focus on the Japanese courses offered and qualification of instructors and a comparison with the mission and education goal of individual department. This study also interviewed the students who changed the major from English to Japanese or vice versa to explore how they valued Japanese in study. Results of this study revealed that both Department of (Applied) English and Department of (Applied) Foreign Languages, particular for the latter, had paid attention to Japanese education. Interviews noted the interests on Japanese for students from both Department of (Applied) English and Department of (Applied) Foreign Languages.

keywords : Second foreign language, Japanese, course, instructor, interview

台湾の大学の英語学科・外国語学科における日本語教育 に関する一考察

王敏東*・廖俊棋

台湾科技大学応用外国語学科*・台中科技大学応用日本語学科

1. はじめに

わが国の大学の英語学科・外国語学科も日本語教育を担っており、現在歓迎されている、日本語に加えて別の外国語にも堪能な人材を育成する¹重要な機構だと分かる。台湾のいわゆる第二外国語の日本語教育に関して、たとえば観光学科や理工系の学科、医学部、さらにはとくに専攻を限定せず「非日本語学科」での開講状況について検討した論考は散見される²ものの、性質・分野が最も「日本語」に近いと思われる、「外国語」を冠した学科（外国語学科または応用外国語学科）における日本語教育についての論考は、管見の限り稀である。英語学科における日本語教育に至っては皆無のようである³。

従来わが国の大学で英語をメインに教育を進める学科の名前は「英語学科」（中国語で「英語系」や「英國語文學系」）、「外国語学科」（中国語で「外文系」）、「西洋語文学科」（中国語で「西語系」⁴）

¹ ちなみに、英語を重要視することをアピールする日本語学科もある。

² 観光日本語関係の教材については王（1998）、観光日本語文型については林（2004）、観光学科で開講されている日本語の授業については莫・柯（2011）、理工系の学科における日本語教育については王（1999）、医学部における日本語教育については王（2010）、非日本語学科における日本語教育については黄（2011）、王（2012、2013b）などがあげられる。

³ しかし、やや対象が異なっており、親民工商専科学校応用外国語科の日本語教育の状況について李（2003）の報告はある。また、王（2014）は、科技大学に在籍し、日本語学科に入る前には日本語専攻でなかった学習者24名（そのうちの12名は外国語を専攻していた）を対象に、彼らの日本語不安などについて2013年12月～2014年1月に質的なインタビュー調査をした。

⁴ 高雄大学西洋語文学科や、政治大学英語学科の前身があげられる。しかし、2014年現在、台湾では「西語」は普通スペイン語（スペイン語）のことを指している。

等、多様である⁵。「教育部 101 学年度大学校院一覧表」によると、わが国には102学年度においてあわせて50の英語学科と応用英語学科が存在する（以下「英語学科」で一括することがある）。また、外国語学科ないし応用外国語学科と称する学科は、実際には英語教育を偏重している。「教育部 101 学年度大学校院一覧表」を見ると、外国語学科と応用外国語学科があわせて 60 リストアップされている（以下「外国語学科」で一括することがある）⁶。なお、一校だけに見られた「西洋語文学科」は、本研究では「外国語学科」に入れることとする。

2. 研究方法

本研究の主要な目的は英語学科・外国語学科の日本語教育の実態を究明することである。よって具体的にはまず、全国の英語学科・外国語学科の数を把握する。次は英語学科・各外国語学科における学科の設立趣旨、教育目標、そして教育目標を達成する上で核となる能力を調べ、日本語学科が各英語学科・外国語学科（そして全国における英語学科・外国語学科全体）に占める重要性を見出す。また、各英語学科・外国語学科で日本語に関する授業が開講されている様子、教師の内訳などについても調査する。調査資料は各大学のホームページ⁷で、調査時期は2014年2～7月である。

また、(高職または五専の)英語科・外国語科で日本語を学んだ後、日本語学科に進学した学生、またはそれと逆に、(高職または五専で)日本語を専攻したが英語学科・外国語学科に進学した学生の学習歴や心境を探るため、質的なインタビュー調査を行う。インタビューをした時期は2014年5～6月である。

⁵ 蔡（1995）。

⁶ 「韓国語」学科や「フランス」学科などのように、特定の外国語を学科名に明示した学科は数が少ないため本研究の検討範囲外とする。しかし、2014年2～7月に筆者が調査したところ、外国語学科と応用外国語学科は55しか確認できなかった。詳細は後述する。

⁷ 大学の資料は「教育部 101 学年度大学校院一覧表资讯网」によった。

3. 英語学科に対する調査

3・1. 台湾における英語学科の数

「教育部 101 学年度大学校院一覧表」によると、そこに掲載されている応用英語学科を含む英語学科は 50 ある（表 2）。筆者が 2014 年 2～7 月に確認したところ、このうち、英語学科は 22 で、応用英語学科は 28 であった。教育部の技職司の管轄である科技大学には英語学科は 1 つのみで、応用英語学科は 21 設けられている。一方、高教司管轄下の一般の大学には英語学科も応用英語学科も設けられているが、英語学科の方が多い（下記表 1 参照）。

表 1 台湾の大学における英語学科⁸

大学の性質	学科（部門）		数		
一般の四年制大学	英語学科		21	28	50
	応用英語学科		7		
科技大学	英語学科（四技および二技）		1	22	
	応用英語学科	（四技および二技）	4		
		（四技のみ）	17		

3・2. 英語学科のホームページに見る日本語の重要性

この節では日本語が英語学科に占める重要性を検討する。具体的には、各英語学科のホームページに提示されている設立趣旨、教育目標、目標を達成するための核となる能力などの中で、「日本語」がどのように取り上げられているかを観察する。表 2 はそのまとめである。「設立趣旨・目標」の欄には、設立趣旨などに「日本語」が明示されていた学科は「○」、「外国語」とのみ示されていた学科は「△」、全く触れられてなかった学科は「×」を記入している。表 2 で分かるように、設立趣旨、教育目標、目標を達成するための核となる能力に何らかの形で明らかに「日本語」に言及している英語学科は 2 学科、「日本語」と明示せずに「外国語」と広範囲に提示されている外国語学科は 14 学科、「日本語」について全く触れられていないのは 34 学科もある。

⁸ 詳細のリストは表 2 を参照。

3・3．英語学科での日本語科目開講状況

3・2の調査結果を見ると日本語教育に力を注ぐ英語学科はそう多くないように見える。しかし、各英語学科での実際の日本語開講状況はどうであろうか⁹。同じく2014年2～7月に各英語学科のホームページに提示されていた資料をまとめると表2のようになる。

表2 英語学科での日本語開講状況

英語学科						
高教司管轄下の一般の大学		設立趣旨・目標 (記号)	科目数 ¹⁰	必修/選択 (科目数)	単位数	開講される学年
国立政治大学		△	0	0	0	0
国立台湾師範大学		×	3	選択	12	2～4年
国立中央大学		×	0	0	0	0
国立高雄師範大学		△	1	選択	12	1～3年
国立彰化師範大学		△	1	選択	12	1、2年
国立東華大学		×	1	選択	18	2～4年
国立台東大学		△	1	選択	8	3、4年
国立台南大学		×	2	選択	12	2～4年
国立台中教育大学		△	2	選択	8	2、3年
国立屏東教育大学		△	1	選択	12	2～4年
台北市立大学		×	1	選択	6	2年
輔仁大学	「外国語文」 ¹¹ 必修	×	1	(必修)	提示されていない	1年
東吳大学	「外文」 ¹² 必修	×	1	(必修)	8	1、2年
淡江大学(英文学系)		×	0	0	0	0
淡江大学(英美語言文化学系)		×	0	0	0	0
中国文化大学		×	0	0	0	0

⁹ ちなみに、各英語学科で日本語の次に多く開講されている外国語はスペイン語(31学科)、フランス語(30学科)、ドイツ語(16学科)、韓国語(3学科)、ロシア語(2学科)、イタリア語(1学科)、となっている。

¹⁰ 同一の科目名の一、二(たとえば「日本語一」、「日本語二」や「日文上」、「日下文」)のような科目は1科目として計上する。以下同様。

¹¹ 日本語はスペイン語やフランス語などいろいろな外国語の選択肢の1つとなっている。

¹² 同前注11。

静宜大学	第二外国語選択 ¹³	△	0	0	0	0
大葉大学		×	0	0	0	0
世新大学		×	1	選択	8	2、3年
真理大学		×	0	0	0	0
慈済大学		×	1	選択	4	2年
技職司管轄下の大学 (四技および二技)		記号	科目数	必修/選択 (科目数)	単位数	開講される学年
文藻外語大学		△	0	0	0	0
応用英語学科						
高教司管轄下の一般の大学		記号	科目数	必修/選択 (科目数)	単位数	開講される学年
国立金門大学		×	1	選択	4	2年
義守大学		×	0	0	0	0
銘傳大学		×	1	選択	8	2、3年
開南大学		×	0	0	0	0
明道大学		×	7	選択	14	提示されていない
興国管理学院		×	提示されていない			
真理大学		×	1	必修	8	1、2年
技職司管轄下の科技 大学(四技および二技)		記号	科目数	必修/選択 (科目数)	単位数	開講される学年
国立台中 科技大学	二技	×	2	選択	8	1、2年
	四技		2	選択	8	2、3年
国立高雄 第一科技大学 (「第二外語」必修)	二技	△	1	必修	6	1、2年
	四技		1	必修	6	1~3年
台南應用 科技大学	二技	○	2	選択	10	1、2年
	四技		3	選修	12	1~4年
德霖技術 学院	二技	○	2	必1/選1	必4/選4	1、2年
	四技		5	必2/選3	必8/選8	1~4年
技職司管轄下の科技 大学(四技のみ)		記号	科目数	必修/選択 (科目数)	単位数	開講される学年

¹³ 英語学科で「日本語」が開講されていないが、外国語学部で開講されている12~18単位の「日本語」を取ることが可能である。

修平科技大學	×	2	選択	8	2、3 年
朝陽科技大學	×	4	選択	12	1~4 年
南臺科技大學	△	5	選択	14	1~3 年
致理技術學院	△	2	選択	6	2~4 年
中國科技大學	△	1	選択	8	1、2 年
国立台北科技大学	△	1	選択	8	2、3 年
国立高雄餐旅大学	×	2	選択	4	4 年
国立屏東商業技術学院	△	1	選択	8	1、2 年
国立勤益科技大学	×	1	選択	8	2、3 年
元培科技大学	×	3	選択	提示されていない	2~4 年
僑光科技大学	×	3	選択	16	1~4 年
育達科技大学	×	1	選択	6	2 年
聖約翰科技大学	×	1	選択	8	2、3 年
東南科技大学	×	1	選択	4	4 年
弘光科技大学	×	1	選択	12	2~4 年
醒吾科技大学	×	0	0	0	0
崑山科技大学	×	5	選択	20	2~4 年

表 2 で分かるように、日本語が開講されていない英語学科は少数である。開講されている場合、その大半は選択科目となっている。また、科目数としては 1 科目というのが最も多く（0 科目 12 学科、1 科目 23 学科、2 科目以上 18 学科）、単位数もそう多くない（0 単位 12 学科、1~10 単位 25 学科、11~20 単位 14 学科）。しかし、設立趣旨、教育目標、目標を達成するための核となる能力を示す文に「日本語」または「外国語」が見当たらない英語学科（表 2 「×」で示している）でも日本語が広く開講されていることは注目に値する。

3・4. 英語学科で日本語を教授している教師

日本語学科が設けられている大学では学校全体の日本語に関する授業は日本語学科が支援しているのが普通である¹⁴。今回調査をした 50 の英語学科が所属している大学の、たとえば台中科技大学や銘

¹⁴ 日本語学科の先生のうち誰が、英語学科でどのような日本語の授業を担当するかについては、学科の事情により学年（または学期）ごとに違うのが普通である。

傳大学など、約 4 割の大学には日本語学科が設けられている。このように、4 割程度の英語学科の日本語教育には日本語学科が関与していると言えよう。

他の 6 割の英語学科の日本語教育はどのような教師によって担われているかを探求するため、英語学科の日本語教師についての情報を、2014 年 2～7 月に各英語学科のホームページに提示されている資料により整理した（表 3）。

表 3 英語学科の日本語教師の概要

		専任 人数	兼任 人数	計 人数 (%)
国籍	台湾人	4	14	18 (60.0%)
	日本人	3	8	11 (36.7%)
	アメリカ人	1	0	1 (3.3%)
	提示されていない	0	0	0
	計	30 (100%)		
ポジション	教授	0	0	0
	準教授	2	0	2 (6.7%)
	助理教授	1	0	1 (3.3%)
	講師	5	19	24 (80.0%)
	提示されていない	0	3	3 (10.0%)
	計	30 (100%)		
専門 ¹⁵	日本語学	1	1	2 (4.7%)
	日本語教育	5	20	25 (58.1%)
	文学	4	2	6 (14.0%)
	文化、歴史	0	3	3 (7.0%)
	商業、ビジネス	1	1	2 (4.7%)
	その他	5	0	5 (11.6%)
	提示されていない	0	0	0
	計	43 (100%)		

まず、日本人教師（36.7%）より、台湾人教師（60.0%）の方が多いことが分かった。これは交流協会（2010：11）が 2009 年度¹⁶に全国高等教育機構を対象とした調査結果の、日本語母語教師が台湾人教師より少ないという傾向と同じだが、交流協会の調査結果に見ら

¹⁵ 複数の専門を有する教師もいるため、専門の合計数は教師数を上回っている。以下同様。

¹⁶ 調査期間は 2009 年 9 月～2014 年 4 月である。

れる日本語母語教師の割合（19.2%）は、今回の日本人教師の割合（36.7%）よりかなり低い。

また、表3中の欄の、教授 0%、準教授 6.7%、助理教授 3.3%、講師 80.0%といった数字を見れば、英語学科の日本語教育は主に講師が担当していることが分かる。これは日本語学科の大学院の専任教師の「教授 16.0%、準教授 32.4%、助理教授 51.5%」の分布¹⁷と相当異なっている。

なお、英語学科の教師の専門については「日本語教育」が専門の教師が最も多いことが分かった。次は「文学」、そして「文化、歴史」と続き、「商業、ビジネス」および「日本語学」が最下位である。つまり、日本語学科では全体の3分の1強を占める「日本語学」を専門とする教師の割合が、英語学科では最下位（「商業、ビジネス」と同じ比率）となっているのである。

3・5. 英語学科に対する調査のまとめ

上記（3・1～3・4）の調査で、学科の設立趣旨、教育目標、目標を達成するための核となる能力を示す文に「日本語」または「外国語」が見られる英語学科はそう多くないが、日本語が開講されていない英語学科は少数派であることが分かった。教師については、「日本語教育が専門」の「台湾人」「講師」が多いことを明らかにした。

4. 外国語学科に対する調査

4・1. 台湾における外国語学科の数

「教育部 101 学年度大学校院一覧表」掲載の応用外国語学科を含む外国語学科は60あるが、筆者が2014年2～7月に確認したところ、募集停止したものを除くと55であった（表5）。このうち、いわゆる応用外国語学科はその7割近くの38を占めている。教育部の技職司の管轄である科技大学には外国語学科はなく、応用日本語学科の

¹⁷ 王・呉（2014：26）。

み設けられている。一方、高教司管轄下の一般の大学には外国語学科も応用日本語学科も設けられている。なお、一校だけに見られた「西洋語文学科」は、本研究では「外国語学科」に入れて検討する（表 4）。

表 4 台湾の大学における外国語学科¹⁸

大学の性質	学科（部門）		数		
一般の四年制大学	外国語学科		17	28	56
	応用外国語学科		10		
	西洋語文学科		1		
科技大学	外国語学科		0	0	
	応用外国語学科	（四技および二技）	12	28	
		（四技のみ）	16		

4・2．外国語学科のホームページに見る日本語の重要性

この節では日本語が外国語学科に占める重要性を検討する。具体的には、各外国語学科のホームページに提示されている設立趣旨、教育目標、目標を達成するための核となる能力などの中で、「日本語」がどのように取り上げられているかを観察する。表 5 はそのまとめである。表 5 で分かるように、設立趣旨、教育目標、目標を達成するための核となる能力を示す文の中で、何らかの形で明らかに「日本語」に言及している外国語学科は 26 で（表 5 「記号」の欄に「○」）、「日本語」と明示せずに「外国語」と広範囲に提示されている外国語学科は 25 で（表 5 「記号」の欄に「△」）、「日本語」について全く触れられていないのは 5 学科（表 5 「記号」の欄に「×」）しかない。

4・3．外国語学科での日本語科目開講状況

4・2 の調査結果でかなりの外国語学科は日本語教育に携わっていることが分かった。この節では各外国語学科での日本語開講状況を見てみる¹⁹。同じく 2014 年 2～7 月に各外国語学科のホームペー

¹⁸ 詳細については表 5 を参照。

¹⁹ 他にフランス語（37 学科）、スペイン語（35 学科）、ドイツ語（23 学科）、韓国語（7 学科）、ロシア語（6 学科）、東南アジア諸語（5 学科）、ポルトガル語（1 学科）、イタリア語（1 学科）も各外国語学科で開講されている。

ジに提示されている資料をまとめると表5のようになる。

表5 外国語学科での日本語開講状況

外国語学科						
高教司管轄下の一般の大学		設立趣旨・目標 (記号)	科目数	必修/選択 (科目数)	単位数	開講される学年
国立清華大学	第二外国語必修	△	9	2/7	必修 12/選択は提示されていない	2、3、4年
国立台湾大学	第二外国語必修	△	0	0	0	0
国立成功大学	第二外国語必修	○	2	2	必修 16	提示されていない、必修2年間
国立中興大学	第二外国語必修	△	1	1/1(「日本語二」と「日本語三」は選択)	必修 6/選択 12	2年/学校全体の共同科目
国立交通大学		△	4	選択	提示されていない	提示されていない
国立中山大学	分組必修(選修学程)	△	3	選択	必修 18	2、3、4年
国立中正大学		△	1	1/1(「日本語三」と「日本語四」は選択)	必修 6/選択 6	提示されていない
国立暨南国際大学	第二外国語必修	○	3	1/3(「日本語三」は選択)	必修 12/選択 12	1、2、3年
国立宜蘭大学	第二外国語必修	○	1	必修	必修 12	2、3年
高雄市立空中大学	英語組	○	0	0	0	提示されていない
	日語組		19	8/11	必修 24/選択 31	
東海大学		×	1	選択	選択 12	2、3年
逢甲大学	第二外国語必修	△	1	必修	8	2、3年

中華大学	第二外国語必修	△	3	2/1	必修 8/選択、提示されていない	2、3 年
華梵大学	第二外国語必修	△	2	1/1	必修 12/選択 2	提示されていない
南華大学	第二外国語必修	△	2	2	8	1、2 年
亜細大学	第二外国語必修	×	10	1/9	必修 4/選択 26	1~4 年
佛光大学	第二外国語必修	○	2	8/11	11	2、3、4 年
応用外国語学科						
高教司管轄下の一般の大学		記号	科目数	必修/選択(科目数)	単位数	開講される学年
国立台北大学	第二外国語必修	△	1	1/1(「日本語二」は選択)	必修 4/選択 4	2、3 年
国立聯合大学	第二外国語必修	△	3	1/2	必修 8/選択 4	2、3、4 年
元智大学	英文組	○	20	7/13	必修 48/選択 24	1~4 年
	日文組		25	12/13	必修 62/選択 24	1~4 年
実践大学	第二外国語必修	△	3	1/2	必修 4/選択 10	2~4 年
真理大学	英語組	○	1	選択	選択 8	3、4 年
	日語組		22	8/14	必修 72/選択 44	1~4 年
大同大学		○	6	2/4	提示されていない	1~4 年
玄奘大学	英語組	○	8	選択	必修 0/選択 16(最低 8 単位)	1~4 年
	日語組		48	21/27	必修 42/選択 54	1~4 年
康寧大学	英語組	○	0	0	0	0
	日語組		12	8/4	提示されていない	1~4 年
台湾首府大学	英語組	○	1	1/1(「日本語会話三」「日本語会話四」は	必修 4/選択 4	2、3 年

				選択)		
	日語組		28	12/16	必修 58/選択 37	1~4 年
中原大学	第二外国語必修	△	2	2	必修 12	提示されていない
西洋語文学科						
高教司管轄下の一般の大学		記号	科目数	必修/選択(科目数)	単位数	開講される学年
高雄大学	第二外国語必修	○	1	1	必修 8	1、2 年
技職司管轄下の科技大学(四技および二技)		記号	科目数	必修/選択(科目数)	単位数	開講される学年
国立台湾科技大学	二技	△	3	選択	選択 10	1、2 年
	四技		3	選択	選択 10	2~4 年
国立台北商業技術学院	二技	○	1	選択	選択 8	1、2 年
	四技		1	選択	選択 8	2、3 年
龍華科技大学	二技(第二外国語必修)	○	2	2	必修 6	1 年
	四技(第二外国語必修)		3	2/1	必修 6/選択 4	2、3 年
輔英科技大学	二技	×	1	選択	選択 8	1、2 年
	四技(第二外国語必修)		1	1/1(「第二外国語三」と「第二外国語四」は選択)	必修 4/選択 4	2、3 年
健行科技大学	二技	○	該当資料なし ²⁰			
	四技		16	5/12(「日本語五」と「日本語六」は選択)	必修 19/選択 32	1~4 年
正修科技	二技	△	該当資料なし ²¹			

²⁰ 「教育部 101 学年度大学校院一覧表」を見ると当該学科には二技部が設けられているが、筆者が 2014 年 6 月に当該学科のホームページを確認したところ、二技は見当たらない。

²¹ 「教育部 101 学年度大学校院一覧表」によると当該学科に二技部が設けられ

大学	四技		6	選択	選択 12	2~4 年
建国科技 大学	二技	○	「進修部」のため、検討範囲外 ²²			
	四技		11	1/10	必修 4/選択 34	1~4 年
大仁科技 大学	二技(日 語組)	○	19	7/12	必修 28/選 択 24	1、2 年
	四技(英 語組)		2	2	必修 4	3 年
	四技(日 語組)		26	9/17	必修 60/選 択 38	1~4 年
景文科技 大学	二技	○	「進修部」のため、検討範囲外 ²³			
	四技(英 語組)		2	選択	選択 8	3、4 年
	四技(日 語組)		28	11/17	必修 50/選 択 50	1~4 年
南開科技 大学	二技	×	1	1	必修 6	1、2 年
	四技		3	1/3(「日本 語三」と 「日本語 四」は選 択)	必修 4/選択 10	1~4 年
和春技術 学院	二技(英 語商務 組)	○	0	0	0	0
	四技(英 語商務 組)		7	3/4	必修 18/選 択 12	1、2 年
	四技(日 語商務 組)		16	5/11	必修 26/選 択 27	1~4 年
蘭陽技術 学院	二技	○	1	選択	選択 8	1、2 年
	四技		4	3/1	必修 16/選 択 8	1~4 年
崇右技術 学院 ²⁴	二技	該当資料なし				
	四技	該当資料なし				

ていることになっているが、筆者が 2014 年 6 月に当該学科のホームページを確認したところ、二技は見当たらない。

²² 当該学科の二技には「進修部」しか設けられていないため、本研究の検討範囲外とする。

²³ 当該学科の二技には「進修部」しか設けられていないため、本研究の検討範囲外とする。

技職司管轄下の科技大学(四技のみ)		記号	科目数	必修/選択 (科目数)	単位数	開講される学年
国立屏東科技大学		○	2	選択	選択 10	3、4 年
国立高雄應用科技大学		×	6	選択	選択 12	1~3 年
国立虎尾科技大学		△	1	必修	選択 4	2 年
国立澎湖科技大学		△	1	選択	選択 8	2、3 年
国立雲林科技大学		△	3	選択	選択 6	2~4 年
嘉南薬理科技大学		△	1	選択	選択 8	2、3 年
樹徳科技大学		○	3	1/3(「初級日本語二」は選択)	必修 2/選択 10	2~4 年
明新科技大学		△	4	選択	選択 16	1~4 年
高苑科技大学	英語組	○	1	選択	選択 8	2、3 年
	日語組		24	9/15	必修 52/選択 45	1~4 年
嶺東科技大学		△	1	選択	選択 12	2~4 年
中台科技大学		△	4	2/2	必修 8/選択 6	2~4 年
徳明財經科技大学	英語教学模組、商用英文模組	○	1	必修	必修 4	1 年
	商用日文模組		12	3/9	必修 12/選択 30	1~4 年
美和科技大学		△	3	選択	選択 12	2~4 年
環球科技大学		△	3	必修 3/選択 1(日本語会話 3、4、5、6 選択)	必修 14/選択 8	1~4 年
台北城市科技大学		○	4	2/2	必修 20/選択 8	1~4 年
東方設計学院		○	該当資料なし			

表 5 で分かるように、ごく僅かの外国語学科以外、ほぼすべての外国語学科で日本語の授業が開講されている。一般の四年制大学で日本語が開講されていないのは、台湾大学外国語学科と、高雄市立空中大学外国語学科英語組という 2 ヶ所のみである。しかも、必修

²⁴ 当該応用外国語学科は 2012 年より新入生の受け入れを中止した。

である第二外国語の選択肢の1つとして日本語が設けられている外国語学科は多い。また、一般の四年制大学の応用外国語学科の半分は英語組と日本語組に分けられているが²⁵、日本語組であれば十数単位から四十数単位の日本語の授業が設けられており、英語組でもその4割は、日本語の必修科目がある程度設けられている。一方、科技大学の方では日本語組はもちろんのこと、英語組も日本語が設けられているのが普通である。また、日本語が1年程度の必修として位置付けられているところも少なくない。なお、科目（名の）数については日本語組は16～48科目となっているのに対して、日本語組以外の場合は0科目4学科、1科目20学科、2科目以上49学科、となっており、英語学科で開講されている科目（名の）数よりずっと多い。

そして、設立趣旨、教育目標、目標を達成するための核となる能力を示す文に「日本語」または「外国語」が見当たらなかった外国語学科（表5「×」で示しており、全5学科）についても、そのすべてで日本語が開講されているのは注目に値する。

4・4．外国語学科で日本語を教授している教師

今回調査をした56の外国語学科が所属している大学のうち、たとえば東海大学など少数の大学には日本語学科が設けられている。これらの大学においては、外国語学科の日本語に関する授業は日本語学科がサポートしていると思われる。では他の外国語学科の日本語教育はどのような教師によって担われているのであろうか。その点を探るため、外国語学科の日本語教師についての情報を、2014年2～7月に各外国語学科のホームページに提示されている資料により整理した（表6）。

表6 外国語学科の日本語教師の概要

		専任 人数	兼任 人数	計 人数 (%)
国籍	台湾人	55	78	133 (71.5%)
	日本人	25	18	43 (23.1%)

²⁵ 他の外国語の組は見当たらない。

	アメリカ人	0	0	0
	提示されていない	10 (5.4%)		
	計	186 (100%)		
ポジ シ ョ ン	教授	1	1	2 (1.1%)
	準教授	12	2	14 (7.5%)
	助理教授	33	7	40 (21.5%)
	講師	34	86	120 (64.5%)
	提示されていない	10 (5.4%)		
	計	186 (100%)		
専門 ²⁶	日本語学	14	7	21 (7.6%)
	日本語教育	65	80	145 (52.2%)
	文学	16	6	22 (7.9%)
	文化、歴史	30	18	48 (17.3%)
	商業、ビジネス	10	10	20 (7.2%)
	その他	5	8	13 (4.7%)
	提示されていない	9 (3.2%)		
	計	278 (100%)		

まず、日本人教師（23.1%）より、台湾人教師（71.5%）の方がはるかに多いことが分かった。これは交流協会（2010：11）が2009年度に全国高等教育機構を対象とした調査結果における、日本語母語教師が全体の19.2%を占めているという数字に近い。

また、表6中の欄の、教授1.1%、準教授7.5%、助理教授21.5%、講師64.5%といった数字を見れば、外国語学科の日本語教育は主に講師が担当していることが分かる。これは日本語学科の大学院の専任教師の「教授16.0%、準教授32.4%、助理教授51.5%」の分布²⁷とかなり異なっている。

なお、専門については、外国語学科の日本語教師の専門は「日本語教育」が最も多く全体の半分以上を占めており、以下2位の「文化、歴史」の2割未満、3位、4位の「文学」と「日本語学」とがそれぞれ1割未満、となっている。専攻が「商業、ビジネス」である日本語の教師は専任と兼任あわせて20名しかいない。外国語学科における日本語教育は主に「日本語教育」が専門の教師によって担わ

²⁶ 1人の教師が複数の専門を有する教師もいるため、専門の合計数は教師数を上回っている。

²⁷ 王・呉（2014：26）。

れていることが分かる。ちなみに、この結果を日本語学科の大学院の専任教師の「日本語学 37.8%、日本語教育 16.4%、文学 25.6%、文化、歴史 9.5%、商業、ビジネス 6.9%、」と比べると、随分様子が異なっている。

4・5. 外国語学科に対する調査のまとめ

上記（4・1～4・4）の調査で、学科の設立趣旨、教育目標、目標を達成するための核となる能力を示す文に「日本語」または「外国語」が見られるかどうかとあまり関係がなく、大半の外国語学科で日本語の授業が開講されており、しかも相当な単位数を割いていることが明らかになった。また、教師については、「日本語教育が専門」の「台湾人」「講師」が大きな役割を果たしているのが分かった。

5. 英語学科・外国語学科に対する調査のまとめ

まず、英語学科および外国語学科の設立趣旨、教育目標、目標を達成するための核となる能力を示す文で「日本語」または「外国語」について触れられているかどうかについて、以下のようにまとめた。

表7 英語学科・外国語学科の設立趣旨等における
「日本語」または「外国語」（数字は学科数）

	英語学科	外国語学科	計
「日本語」と明示	2	26	28
「外国語」とのみ	13	25	38
全く触れていない	35	5	40
計	50	56	106

表7、そして前節（3と4）の検討で、英語学科に比べると外国語学科の方が、学科の設立趣旨、教育目標、目標を達成するための核となる能力などを示す文で日本語に言及しているところが多いことが分かっている。また、日本語に関する授業も外国語学科の方でより多くかつ多種多様な授業が開講されている。しかし、英語学科でも外国語学科でも、たとえ設立趣旨、教育目標、目標を達成するための核となる能力などを示す文に日本語を掲げていなくても実際

には日本語が開講されている学科が多く見られた。

一方、教師に関しては、英語学科が設けられている大学に日本語学科も設けられているところは外国語学科と日本語学科と両方設けられている大学より多いので、比較的多くの英語学科の日本語の授業は同大学の日本語学科の教師が担当していると思われる。また、前記表3「英語学科の日本語教師の概要」と表6「外国語学科の日本語教師の概要」をあわせて（表8）を見ると、英語学科も外国語学科も「日本語教育が専門」の「台湾人」「講師」が教師の多くを占めている、といった傾向が読み取れる。しかし、国籍に関しては、英語学科での日本人教師の比率（36.7%）が外国語学科の日本人教師の比率（23.1%）より高い。ポジションについては英語学科での講師の比率（80.0%）が外国語学科の講師の比率（64.5%）より高い。

表8 英語学科・外国語学科の日本語教師の概要

		英語学科			外国語学科			計 人数 (%)
		専任	兼任	計	専任	兼任	計	
国籍	台湾人	4	14	18(60.0%)	55	78	133(71.5%)	151(69.9%)
	日本人	3	8	11(36.7%)	25	18	43(23.1%)	54(25.0%)
	アメリカ人	1	0	1(3.3%)	0	0	0	1(0.5%)
	提示されていない	0			10(5.4%)			10(4.6%)
	計	30			186			216(100%)
ポジション	教授	0	0	0	1	1	2(1.1%)	2(0.9%)
	準教授	2	0	2(6.7%)	12	2	14(7.5%)	16(7.4%)
	助理教授	1	0	1(3.3%)	33	7	40(21.5%)	41(19.0%)
	講師	5	19	24(80.0%)	34	86	120(64.5%)	144(66.7%)
	提示されていない	0	3	3(1.0%)	10(5.4%)			13(6.0%)
	計	30			186			216(100%)
専門 ²⁸	日本語学	1	1	2(4.7%)	14	7	21(7.6%)	23(7.2%)
	日本語教育	5	20	25(58.1%)	65	80	145(52.2%)	170(53.0%)
	文学	4	2	6(14.0%)	16	6	22(7.9%)	28(8.7%)
	文化、歴史	0	3	3(7.0%)	30	18	48(17.3%)	51(15.9%)

²⁸ 1人の教師が複数の専門を有する教師もいるため、専門の合計数は教師数を上回っている。

	商業、ビジネス	1	1	2 (4.7%)	10	10	20 (7.2%)	22 (6.9%)
	その他	5	0	5 (11.6%)	5	8	13 (4.7%)	18 (5.6%)
	提示されていない	0			9 (3.2%)			9 (2.8%)
	計	43			278			321 (100%)

また、財団法人交流協会（2010：9）に見られる、台湾の大学における日本語教師の全体数は 1692 人となっており、英語学科と外国語学科のあわせて 216 人という教師数は、この中でかなりの割合（12.7%）を占めていることが分かる。

このように、英語学科・外国語学科は日本語教育に非常に力を入れていることが分かった。

6. インタビュー調査

本文「要旨」の冒頭にも示したように、（科技大学の）日本語学科ではじめて日本語を専攻した学習者には、英語科または外国語科の出身者が多い。その一方、日本語を専攻していたのに英語学科または外国語学科に進学した学生もいる。このような学生の学習歴や心境を知るため、インタビュー調査をした。インタビューを受けた者は台湾中部にある T 科技大学の学生 14 人である²⁹。学習者の希望にしたがい、全 5 回のうち 4 回は団体でインタビューを行った³⁰。1 回に用いた時間は 1～2 時間前後である。実施時期は 2014 年 5 月～6 月で、学習者の母語である中国語で行った。なお、事前に学習者に説明したように、インタビューの内容を筆者により文字化したものを学習者本人に見せて、確認してもらっている。この部分の作業は 2014 年 9 月に終了した。今回インタビューを受けた者の詳細は次表 9 のようになっている。

²⁹ 本研究におけるインタビューの被験者として適切と思われる学習者 16 人に連絡したが、そのうち返事があって実際に調査することができたのは 14 人である。

³⁰ なお、筆者がメモのため、インタビューを受けた者の理解をもらい、録音することもあった。実際に録音したのは 5 回中 1 回である。他の 1 回はインタビューを受けた者（1 人）の都合により E メールで回答を得た。

表9 インタビューを受けた者の内訳（インタビューを受けた時間順）

記号	性別	学年	インタビューを受けた時間	専攻
A	男	4年生	2014. 5. 下旬	英語→日本語
B	女	4年生	2014. 5. 下旬	応用外国語→日本語
C	女	3年生	2014. 5. 下旬	日本語→英語
D	女	3年生	2014. 5. 下旬	日本語→英語
E	女	3年生	2014. 5. 下旬	英語→日本語
F	女	3年生	2014. 5. 下旬	英語→日本語
G	女	3年生	2014. 5. 下旬	英語→日本語
H	女	3年生	2014. 5. 下旬	英語→日本語
I	女	3年生	2014. 5. 下旬	応用外国語→日本語
J	女	3年生	2014. 5. 下旬	応用外国語→日本語
K	女	3年生	2014. 5. 下旬	応用外国語→日本語
L	女	3年生	2014. 6. 上旬	応用外国語→日本語
M	女	3年生	2014. 6. 上旬	応用外国語→日本語
N	女	4年生	2014. 6. 上旬	応用外国語→日本語

表9で示すように、今回インタビューを受けた者の専攻を見ると、外国語から日本語に変えた者7名、英語から日本語に変えた者5名、日本語から英語に変えた2名、となっている。

また、インタビューの具体的な内容は「(1)日本語の学習歴」、「(2)専攻を変えた経緯（いつからそのように思い始めたか。きっかけは何か。理由、目的は何か。）」、「(3)今の学科に入った時の気持ち」、「(4)今の学科に入ってから気持ちの変化」、「(5)前の外国語（或いは日本語）の学習経験は今の専攻に何か役に立ったか、それとも妨げとなったか。（たとえば英語と、日本語の外来語、英語と日本語の発音などはそれぞれの言語の勉強にどのような影響があるか。）」、「(6)前の専攻と今の専攻のそれぞれにおける目標は何か。」、「(7)前の専攻と今の専攻は、それぞれあなたの人生においてどのような位置を占めていると予想されるか。（たとえば就職に関してはどちらがメインで、どちらが副次的か。または、どちらかを単なる趣味にとどめるか。）」、となっている。以下、質問(1)～(7)の順で具体的な回答内容について述べていく。質問で得た各人の答えを列挙するのではなく、まとめており、学習者の発言をそのまま引用する場合は「」内に入れる。

(1) 日本語の学習歴

最初から日本語が好きで勉強を始めたと言ったごく少数³¹を除くと、日本語との出会いは学校の授業だという人が最も多い。しかし、この学校での学習がきっかけで、日本語が好きになり、より多く勉強したいと思い、さらには日本語塾や（日本の）日本語学校に行つてまで日本語を学んだ人が何人もいる³²。

また、最初に日本語を専攻として選んだ者の中には、「英語は小さい頃からすでにある程度勉強してきたので、今後は自習できる。したがって、続けて英語を勉強するより一から丁寧に教えてくれる日本語科の方に行つた方が将来の就職などに有利だ。」ということを述べた者が何人かいる。

(2) 専攻を変えた経緯（いつからそのように思いはじめたか。きっかけは何か。理由、目的は何か。）

元の専攻³³に飽きてつまらなく思うようになり、今の専攻に魅力を感じ、その学科の方が向いていると述べた人は数人いる。また、「元の専攻で進学しようとしたが失敗したので、倍率がそう高くない今の専攻の学科に行こうと進学計画を変え、1年塾に通い、2年目で願いが叶って今の学科に入った。」「たまたま今の専攻の友達がいて、その専攻の活動に参加させてもらったら、こちらの言葉の有用さを実感した。」と言った者が1名ずついる³⁴。

このように、専攻を変えた理由としては趣味、入りやすさ、有用性があげられている。

ただし、専攻を変えてはじめて、元の専攻の方が好きであったと

³¹ 「おじいさんが日本語ができるから、いつも電話などで日本語をしゃべっているおじいさんを見て格好いいと思い、日本語に憧れていた。」と言った者もいる。

³² 「目的は学校で学んだ日本語の復習と、日本人（教師）と会話する機会を増やすことである。」という者もいる。

³³ または「その学科で勉強しなければならない科目にどうしても興味が感じられない。」、或いは「今の学科では自分に向いている方向の授業が比較的多くあるからだ。」という者もいる。

³⁴ ちなみに、この人も日本語が好きだという。

気付いた者もいる。また、専攻を変えたからといって、元の専攻に関する勉強を放棄するわけではなく、何らかの形で元の専攻の言葉に接する機会を意識的に保持している者もいる。

ちなみに、専攻を変える決定に際して、ほとんどの学生は家族からとくに意見されなかったという。この点については、王（2014）の、日本語学科に入る前には日本語専攻でなかった学習者（科技大学に在籍）24名を対象としたインタビュー調査で明らかにされている、はじめて専攻を選ぶ時の学生の家族の態度とは随分異なっている。それは、専攻という、自分の未来に直結するようなものを決めるのには十代はまだ早いという親の心配が裏付けられていると思われる。また、「日本語にも英語にも熟達していることは就職に絶対プラスになる」とインタビューを受けた者たちは口をそろえた。専攻を変えることは元の専門にもう1つ専門分野が増えるという意味で、どう考えても自分にとってプラスになると考えるのであろう。

(3) 今の学科に入った時の気持ち

わくわくして授業の内容や交換留学のチャンスに期待して入ったという者や、新しい環境への適応にはとくに問題はなかったが、元の専攻の外国語の力が落ちることを心配した者がいる。その一方で、自分の力はクラスメートに及ばないのではないかという不安を抱いたという者も多い。彼らの中には心細いと思った者や呆然とした者もいるが、「だからこそ、もっと頑張っているいろいろなことにチャレンジし、自分の力を試してみようという動力にもなった。」という者もいる。

(4) 今の学科に入ってからの方持ちの变化

入る前からの想像・期待と違っている、と思った人は少なくない。「授業の内容は期待していたのと違い、ちょっとがっかりしたが、授業だけでは不十分と感じた部分は別の方法で補強している。」「入ったら、クラスメートが優れていることに啞然とした。私も頑張らなくちゃと思った。」のような感想を聞いた。また、「今の学科は設備や教師の態度などの面で前の学科とかなり異なっているので、専

攻を変えたことをやや後悔している。じっくり考えてみたら、以前専攻していた言語の国の文化がいつの間にか身に付いていたようだ。前の専攻の言葉の方が今の専攻の言葉より好きだったかもしれない。」「2ヶ所の文化は確かに違うとしみじみ感じている。」「双方の各々違うところが身に付けられてとても楽しい。」のようなとくに日本文化と英米文化に着目する意見もあった。なお、「レポートやゼミなどでここでの勉強は大変だろうと予想していたが、予想より遥かにハードだった。疲れてはいるがためになるので、悪くはないと思った。」「レポートなどの宿題が多過ぎで、言葉の四技能をアップさせる余裕がなく、ちょっと落ち込んでいる。」「大変だが、発表など数多くの宿題で充実した毎日である。時間の管理もうまくなったし、自分の意見を堂々と言えるようになっていく。」というように、大量の宿題などの試練で、成長した者もかなりいる。しかし逆にそのせいで、「挫折感が強く、将来に向けて何をしたらいいのか分からなくなっている。」という声も聞かれた。

(5) 前の外国語（或いは日本語）の学習経験は今の専攻に何か役に立ったか、それとも妨げとなったか。（たとえば英語と、日本語の外来語、英語と日本語の発音などはそれぞれの言語の勉強にどのような影響があるか。）

頭の中で英語と日本語を別々に処理している人とそうでない人の2派に分かれている。前者からはたとえば「英語の勉強を始めたのが日本語よりずっと早かったので、発音の面ではとくに影響されていない。」「互いに影響し合っているとは思えない。日本語の外来語を見ても英語との関連がすぐには見付からない。」「英語と日本語は全く異なっている。」などの意見、後者からは「英語の知識は片仮名や外来語の理解に役立つ。」「日本語の外来語を目にする度に語源について辞書で調べている。」「英語が分かればすぐ日本語の外来語が覚えられる。また、英語を日本式の発音ですれば大体それらしい外来語が推測できる。」などの答えを得た。しかし、「英語で何かを話そうとしたら、頭の中に最初に浮かんだのは英語でなく、日本語だ

った。逆の場合もある。」、「アクセントがおかしくなった。」、「文法
の理解で邪魔になったことがある。」などの悩みを抱えている者もい
る。とくに今の専攻に専念し過ぎると、前の専攻でやったことを忘
れてしまうのではないかと懸念している学生は多い。

(6) 前の専攻と今の専攻のそれぞれにおける目標は何か。

「天に任せて、目標なんかとくにない」という者が1名あったが、
それ以外の学習者は全員、何らかの目標を掲げている。短期的な目
標として、たとえば日本語能力試験の何級に合格する、英語テスト
のTOEICで何点取りたい、などとはっきりと数字化できるものがある。
また、「しばらく元の専攻の言葉に触れないでいると後ろめたい
感覚を覚えるので、週に2、3回ほどその国のホームページサーフィ
ンをしたり、ドラマやアニメを見たりして、その言葉に対して疎遠
にならないように努力している。」、「今の専攻に支障が出ないことを
前提に、前の専攻の授業も取るようにしている。」のような具体的な
行動を示している人もいる。究極的には2つの言葉を自由自在に使
うことが多くの学生の目標のようである。

**(7) 前の専攻と今の専攻は、それぞれあなたの人生においてどのよう
な位置を占めていると予想されるか。(たとえば就職に関してはどち
らがメインで、どちらが副次的か。または、どちらかを単なる趣味
にとどめるか。)**

就職に関してはどちらがメインでどちらが副次的かというよう
な設定はとくにないと述べた者がほとんどだが、前問(1)で日本語が
好きだと明示した者の中には、できれば日本語を生かす職に就きた
いと示すのみならず、たとえ希望通りにならなくても日本語をいろ
いろな情報のソースや娯楽³⁵の一部にすると表明した者が数名いる。
また、現実の面において、英語に関する仕事は、チャンスは多いも
のの、競争も激しい³⁶、と広く認識されているようだ。なお、1人だ

³⁵ たとえば旅行などである。

³⁶ 対照的に日本語が必要な仕事の機会はそう多くないかもしれないが、日本語
が堪能な人も多くないので、競争もそれほど激しくないだろうという。

けだが、どちらの言葉も趣味程度でいいだろうと答えた者がいる。

7. おわりに

これまでの検討により、以下のことが分かった。まず、英語学科より外国語学科の方が日本語教育に熱心であるように見えた。たとえば、外国語学科の方が、設立趣旨、教育目標、目標を達成するための核となる能力を示す文で「日本語」または「外国語」に言及しているところが多い。また、日本語に関する授業も外国語学科の方で多く開講されている。もっとも、設立趣旨、教育目標、目標を達成するための核となる能力を示す文に「日本語」または「外国語」が取り入れられていない英語学科または外国語学科でも実際に日本語の授業が設けられているものもある。

教師に関しては、英語学科と外国語学科で日本語に携わっている教師の数が、全国の大学の日本語教師数の1割以上を占めていることを明らかにした。教師の内訳を見ると「日本語教育が専門」で、「台湾人」で、「講師」である、という者が最も多い。

また、専攻を変えた学生にインタビューすることにより、学習者になるべく早期に日本語と触れ合う機会を与え、日本語が好きになってもらうきっかけを作ることが日本語教育において大切なことであると実感した。英語に加えて日本語にも優れる者は就職などにプラスになると考えられる。英語学科・外国語学科における日本語教育は英語学科・外国語学科と日本語学科がともに発展するウインウインの関係を築くことが大いに期待できよう。

本文の冒頭でも述べたように、わが国における（応用）英語学科と（応用）外国語学科の日本語教育に関する事情の調査ははじめてで、時間、人力、紙幅など客観的な条件にも制限があったが、それでも現時点の実態を少しでも明らかにしたいと考えた。もちろん、各英語学科・外国語学科における日本語の授業（選択や必修の実質的実態的意味や、学科のカリキュラム全体の中での位置）、さらに英語学科・外国語学科が日本語教師を選考する際に重要視することな

ど、より深く探求することも必要である。今回の調査では、授業の内実はホームページに提示されている内容のみを資料としたため、明らかにされていない部分が多いと思われる。したがって、より具体的な実情についての調査を、今後の課題にしたい。

参考文献

日本語

王敏東（1998）「台湾における観光日本語関係の教材について」『日本語教育研究』36期、pp. 93-104

王敏東（1999）「台湾における科学技術日本語教育について」『日本語教育研究』38、pp. 99-112

王敏東（2010）「台湾の大学における第二外国語としての専門別日本語教育—医学日本語を出発点として—」『臺灣日本研究』4、pp. 133-161

王敏東（2013b）「台湾の非日本語学科の大学生が考えるよい日本語の授業・試験および学習者の姿」『台灣日語教育學報』20、pp. 31-60

王敏東（2014）「日本語力が違う学習者の共学についての一考察—科技大学日本語学科における日本語学習歴が浅い学習者の視点から—」『台灣日語教育學報』22、pp. 1-29

王敏東・鄭凱文（2011）「台湾における日本語学科の大学院生の生涯についての調査研究」『東吳日語教育學報 碩士班成立三十週年紀念集』第36巻、pp. 1-30

王敏東・鄭凱文・仙波光明（2012）「台湾の日本語学科の大学院生の日本語とのかかわりについての訪問調査—進学前から卒業後まで—」『言語文化研究 徳島大学総合科学部』第20巻、pp. 139-162

黄鈺涵（2011）「台湾の高等教育機関における日本語教育—台湾大学の第二外国語を例として—」『台大日本語文研究』21、pp. 161-178

交流協会（2010）『2009年度 台湾における日本語教育事情調査 報告書』

（http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/15aef977

a6d6761f49256de4002084ae/bc91be92bb078ce7492579e5000d2f47
/\$FILE/2009research.pdf) (2014. 8. 2)

李美麗 (2003)「応用外国科の日本語教育の実施現状と問題点について親民専科学校の応用外国科を例に」『台湾日本語文学報』18、pp. 393-420

林長河 (2004)「観光日本語文型の使用頻度と機能についての一考察—レストラン日本語を例に—」『銘傳日本語教育』7、pp. 1-29

中国語

王敏東 (2013a)「学習経歴及自我評価与学習成效の関連性探討—台中科技大学日語系学生の調査研究—」、中国日語教学研究会山東分会成立大会暨第一屆日本学高端論壇国際學術研討会

王敏東・呉慧雯 (2014)「我國日研所培育之日本相關專業人才初探—以 2008~2012 學年度碩博士論文分析為著眼點—」『東吳日語教育學報』42、pp. 1-30

蔡鈺鑫 (1995)「從中國文化大學英文系的一項學生問卷調查看我國大學英文系課程的理想與實際」『Hwa Kang Journal of English Language & Literature』1、pp. 77-86

莫素微・柯武德 (2011)「台灣大專校院日語課程與學習目的、職場使用之探討—以日本語文學系、應用日語學系與觀光餐旅系為例」『中華科技大學學報』49、pp. 213-229

教育部 101 學年度大專校院一覽表資訊網
(http://ulist.moe.gov.tw/Query/Department_Name?CLASS_ID=2203&CLASS_NAME=%E5%A4%96%E5%9C%8B%E8%AA%9E%E6%96%87%E5%AD%B8%E9%A1%9E&DISCIPLINE_ID=22&DISCIPLINE_NAME=%E4%BA%BA%E6%96%87%E5%AD%B8%E9%96%80&page=1) (2014. 2~7)

(各英語学科・外国語学科のホームページについてはここに再掲しない。)